

少し開いている窓辺

牧師 山本 護

山野に春の霊(風)が吹き、散歩道で摘んだ蔦の蔓はほろ苦さで春の身体を整える。「教会のために」、と K は折にふれて自家農園の花を提供してくれます。オルガン脇に活けてみると窓の外には十字架、ああ受難節なんだな。K は野にいるばかりで礼拝堂に入らない信徒ですが、山茱萸(サンシュユ)と梅の枝花はあたかもその代理のような気がします。



「旧約聖書」、とは新約聖書をもつキリスト教会側からの呼び方で、ユダヤ教にとってそれは単に「聖書」もしくは「TNK/タナク」と呼ばれています。「Torah./トーラー(律法)」、「Nebiim/ネビーイーム(預言者)」、「Kethubim/ケスービーム(諸書)」の語頭文字によるタナク。ユダヤ教には、タナクを補完する重要な文書があります。2世紀頃に集成された口承律法「Mishna/ミシュナー」とそれを解説する「Talmud/タルムード」。これらは正典タナク(旧約聖書)を実生活に反映させる上での橋渡しになっています。

ユダヤ教にとって聖書正典はタナクをもって完結しています。しかしキリスト教会はそれを「旧約」と呼んで完結させず、新約聖書に向かって開かれたものになっています。キリスト者は、これら旧約と新約を相互に循環させることで、旧新約聖書になおも未知の奥行を見だし、果敢にそこへ踏み込んで来ました。今日でもふいに、春の味のようなほろ苦い御言葉を「食べる」ことがあり、聖書の瑞々しさに驚かされます。

キリスト教会の正典は旧約と新約、二つの聖書で完結し、閉じられているのでしょうか。「窓がぴっちり閉じられ」一定の規範をめざす教会があり、タルムードがあるがごとくに現実と響き合わせていく「窓の開いた」教会があります。多くはその混合か。

ひたすら野にあって礼拝堂には入らない信徒 K。稀なケースですが、こんな形でのその人らしい信仰もあるんだなあ、と教えられています。こうした礼拝の献げ方ができるのは、礼拝堂のどこかの窓が開いているせいかもしれません。

閉め忘れられている窓はどこにあるのでしょうか。そこから春の聖霊が吹き込み、山茱萸と梅の枝花を咲かせている。寒くなったら薪ストーブの近くで礼拝し、息苦しくなったら少し開いている窓辺で礼拝を献げてみてください。Ω